

CASBEE® 名古屋

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境2019年版、名古屋市内の建築物の環境性能評価マニュアル(2019) | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)中村区那古野 介護施設 新築工事	階数	地上10F
建設地	愛知県名古屋市中村区那古野一丁目3911番、3912番1、3913番、3914番	構造	S造
用途地域	商業地域	平均居住人員	58 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院,	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2023年12月 予定	評価の実施日	2022年10月20日
敷地面積	866 m ²	作成者	
建築面積	590 m ²	確認日	2022年10月20日
延床面積	4,491 m ²	確認者	
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート	
= BEE1.0 ☆: S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ 			
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)			
2-4 中項目の評価(バーチャート)			
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.9 		Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.1 	
		Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 2.7 	
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.2 		LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.1 	
		LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.8 	
3 設計上の配慮事項			
総合 建物利用者が快適に過ごすことが出来るよう、室内環境に配慮するとともに、省エネルギー設備機器を採用することで地球環境への配慮も考慮した		その他 特になし	
Q1 室内環境 開口部の性能や広さなど、室内で快適に過ごせるよう配慮した		Q2 サービス性能 特になし	
LR1 エネルギー BPI _m : 0.75、B E I _m : 0.88		LR2 資源・マテリアル 節水コマや省水型便器を採用し、再生可能な資材等を取り入れた	
		Q3 室外環境 (敷地内) 可能な限り植栽を設けた	
		LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ の発生量を抑制している	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃業に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)中村区那古野 介護施設 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.1
LR1	エネルギー	3.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.3	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上			
3. 循環型社会				3.1
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.1



2. 自然共生

評価点 = 1.9



3. 循環型社会

評価点 = 3.1



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。